

湖東の森林づくりに関する共同宣言

滋賀県の東部、湖東地域で脈々と営まれてきた私たちの生活は、古くから鈴鹿山系の森林の恵みによって支えられてきました。鈴鹿山系から流れる水は、芹川、犬上川、宇曾川、愛知川、日野川等を通じて里を潤し、琵琶湖に注ぐことで固有の生態系の維持にも貢献してきました。つまり、森林と里と湖は水の循環でつながり、そこに暮らす私たちは、その自然に生かされているといえます。

しかし、近年私たちの暮らしは様変わりし、森林との関わりを意識することが少なくなり、これまで継承されてきた森林管理の責任や必要な情報、利用に関する知恵、所有権さえも引き継がれることが困難となっています。その結果、森林は、自然の恵みを提供する機能や、存在することで発揮する水源かん養等の機能、また観光においても重要な景観を保全する機能等が失われつつあります。これらの機能の低下が、地域経済・社会に与える影響は計り知れません。

そこで、東近江市、日野町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町は、共有の財産である森林を地域で守り育て、次世代に継承していくため、地域で知恵を出し合い、以下の行動方針のとおり、連携・協力して取組むことをここに宣言します。

行動方針

1. 森林資源の賢明な利用

再生可能な森林資源を、有効に利用することは森林の適正な管理に欠かせないことです。このため、互いの協力によって公共施設等に積極的に地域材を活用すると共に、資源量を考慮しつつ木質の燃料化や間伐材を活用した紙等環境負荷の少ない製品の利用を推進します。

2. 適正な森林管理の実現

適正に管理された森林は、そこに存在するだけで水源かん養、国土保全、生物多様性保全、地球環境保全など多面的な機能を発揮します。このため、将来世代に豊かな森林を引き継げるよう、これらの恩恵を受ける多くの人々と、それを守り育てる森林所有者と共に、必要な森林施業を推進します。

3. 都市と山村をつなぐ仕組みづくり

私たちの暮らしや企業活動の中で、森林(木材)に接する機会は少なくなりました。今後適正な森林管理を進めていくためには、森林が与える恩恵を再認識すると共に、都市住民との多面的な交流を提案する必要があります。森林特有の豊かな資源を活用して、都市と山村をつなぐ新たな仕組みづくりに取り組みます。